

あたたかい家庭 あたたかい学級

～新しい社会と子育て 2012～

野田俊作



小学校1年生の男の子

字を書いた紙を持ってきて「上手に書けたでしよ」と言う。しばらくすると、別の字を書いた紙を持ってきて「上手に書けたでしよ」と言う。これをくりかえして、きりがない。

従来への対応

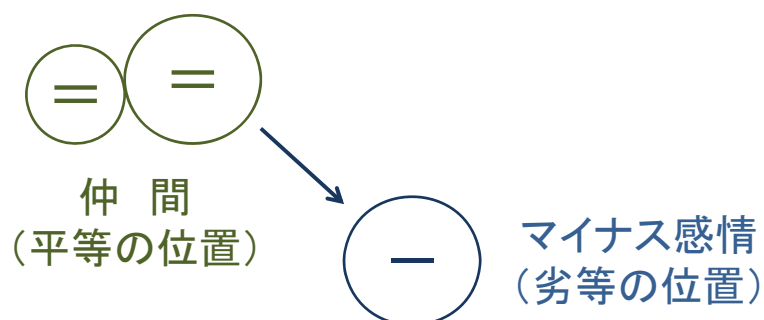
- ・はじめは「上手に書けたね」とほめる。
- ・そのうち面倒になって「はいはい、上手ね」程度になる。



ストップして観察する

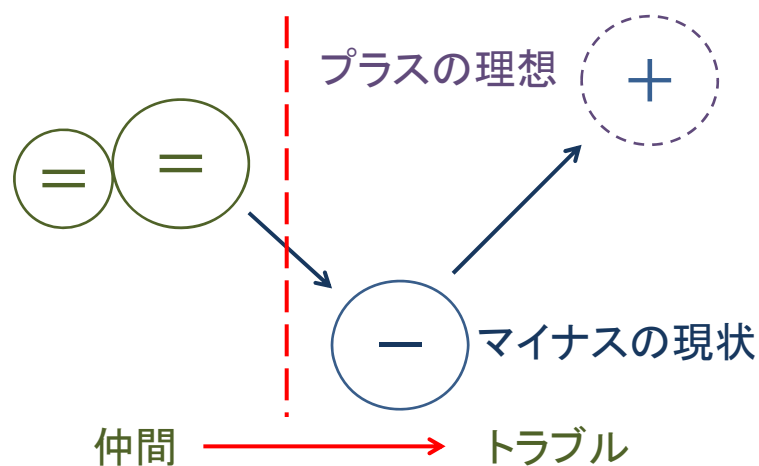
私の感情はプラスかマイナスか？

マイナス感情とは、怒り・不安・後悔など



なぜマイナス感情があるのでしょうか？

現状が理想と違うからです。



起こっていることを理解しましょう。

子どもが求めているものは？

賞賛がほしい。

教師（親）が求めているものは？

クラスの**秩序**に参加してほしい。

子どもの理想は手伝っていいのでしょうか？

いいえ。

私の理想は実現していいのでしょうか？

はい！

子どもの理想はどこが間違っているか？

ほめられたときだけ

所属していると感じていること。

私の理想はどうすれば実現するか？

「仲良し」であることをいつも伝えよう。
言葉だけでなく、生活全体で

「私とあなたは仲間です」

ということが伝わるように。

子どもをかわいがり
子どもと一緒に遊び・はたらき・話し合い
子どもとともに暮らすことでもって
生きる喜びを共有する。

これがアドラー心理学の基本です。

アドラー心理学は
「叱る育児」だけでなく
「ほめる育児」にも反対です。

たとえば

いつも子どもと仲良く遊び、はたらき、話
し合って暮らす。

おりに触れて、「私はいつもあなたのこと
を大切に思っていますよ」と伝える。

教師（親）がもっている、子どもとの理想
的なよい関係を、言葉にして伝えるのは、
多くの場合、よい勇気づけになります。

理想の特徴

理想は「キラキラしたイメージ」です。

1. プラスの感情をともなう
2. 「～する」ではなくて「～である」
3. 「～でない」でなく「～である」
4. 自分の行為の結果

というような特徴があります。

賞賛を求める子どもの例

- ・「宿題ちゃんとやったよ」と自慢げに見せにくる。
- ・「先生、〇〇ちゃんは昨日、掃除をしなかったんです」と言いつける。
- ・みんなが騒いでいるときに、これ見よがしにいい子にしている。
- ・家庭でも、自分のいいことを見せに来たり、他の子の悪いことを言いつけに来る。

提案1：「ほめる」「叱る」から 「ともに暮らす」へ

- ・「この世に生れてよかった」「この家に生まれてよかった」「この学校で学べてよかった」「この国で暮らせてよかった」と、子どもたちに思ってもらいたいのです。
- ・いつも、一人前の人間として、子どもを尊敬し、信頼し、協力しながら暮らしたいと思います。

生きる喜びを共有する。

これがアドラー心理学の基本です。

小学校3年生の女の子

授業中に窓から外をぼんやり見ている。先生の方を向くように言うと、しばらく前を向いているが、しばらくすると、また窓の外をぼんやり見ている。

従来の対応

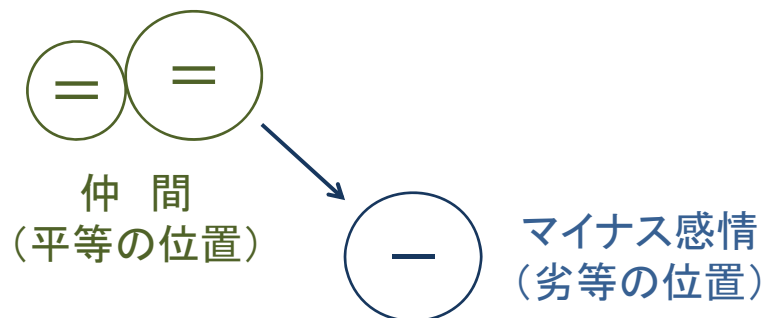
- ・前を向くように注意する。
- ・何度も繰り返されると、叱る。



ストップして観察する

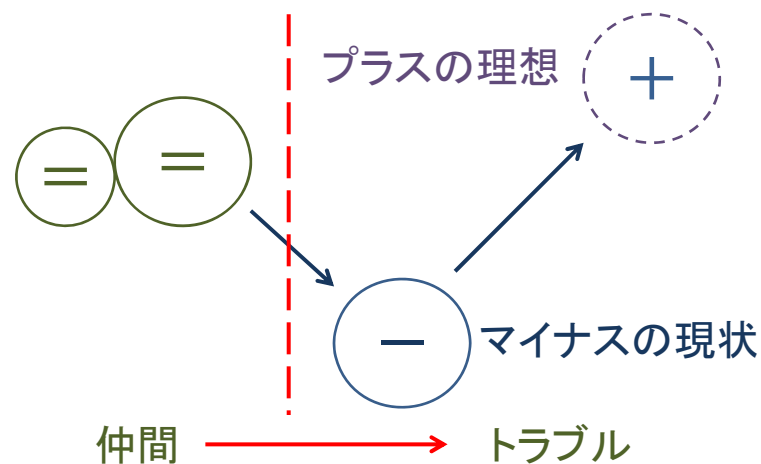
私の感情はプラスかマイナスか？

マイナス感情とは、怒り・不安・後悔など



なぜマイナス感情があるのでしょうか？

現状が理想と違うからです。



起こっていることを理解しましょう。

子どもが求めているものは？

不適切な行動で**注目**してほしい。
教師（親）が求めているものは？

クラスの**秩序**に参加してほしい。
子どもの理想は手伝っていいのでしょうか？

いいえ。

私の理想は実現していいのでしょうか？

はい！

子どもの理想はどこが間違っているか？

注目された時だけ、仲間として所属できていると感じること。

私の理想はどうすれば実現するか？

適切な側面を見つけだし

貢献に対して感謝を伝えよう

意識して探さないと見つかりません。

子どもと一緒に共同体を作り
子どもと一緒に遊び・はたらき・話し合い
みんなで力を合わせて

生きる喜びを共有する。

これがアドラー心理学の基本です。

アドラー心理学は

**すべての子どもが人間の仲間に加わっ
てくれるように勇気づけたいのです。**

たとえば

「絵を描くのが好きなんだね。私もあなたの絵を見るのが好きだし、友だちもみんな楽しんでいるみたいだよ」と、その子の貢献を探しだして、感謝する。

「不適切な行動（窓の外を見ている）がないこと」に注目するのは、不適切な行動に注目するのと同じ効果があるので、「今日はしっかり前を向いて勉強しているね」というのは、おそらく逆効果。

不適切な行動で注目を求める子どもの例

- ・ 授業中におしゃべりをしたり、他の子にいたずらをしたりするが、注意するとすぐやめる。
- ・ 忘れ物が多い。
- ・ 親が忙しくしているときにかぎって話しかけてくる。
- ・ 食事中心に行儀が悪い。

提案2：「ほめる」「叱る」から 「貢献に感謝する」へ

行為ではなく人格とつながる

裁判官にならない

いいことをしているからいい子？

悪いことをしているから悪い子？

貢献する意欲を勇気づける

人はみな共同体に貢献して所属したいのですが、その方法を学んでいないだけです。

だから適切な方法を伝え、

貢献にたいして感謝しましょう。

小学校6年生の男の子

興奮して他の子を暴力的にいじめているので、止めに入ると、「先生はあいつをひいきする」と言って、いっそう感情的になって暴れる。

従来への対応

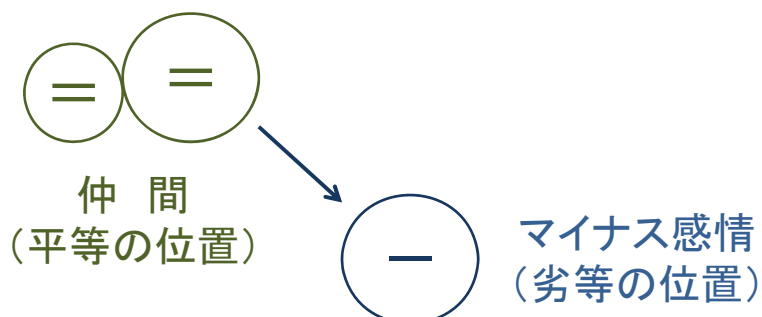
- ・叱る。
- ・それでも暴れるなら、なんらかの強硬手段をとる。



ストップして観察する

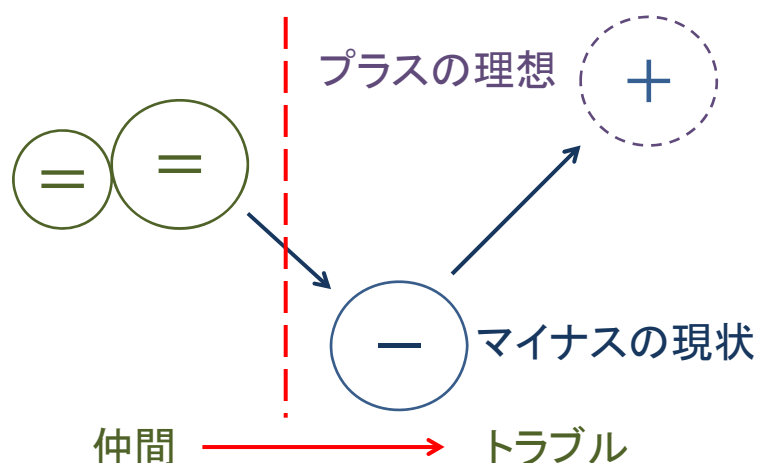
私の感情はプラスかマイナスか？

マイナス感情とは、怒り・不安・後悔など



なぜマイナス感情があるのでしょうか？

現状が理想と違うからです。



起こっていることを理解しましょう。

子どもが求めているものは？

権力をもちたい。

親（教師）が求めているものは？

クラスの**秩序**に参加してほしい。

子どもの理想は手伝っていいでしょうか？

いいえ。

私の理想は実現していいでしょうか？

はい！

子どもの理想はどこが間違っているか？

権力者であった時だけ、仲間の中に自分の居場所があると信じていること。

私の理想はどうすれば実現するか？

子どもがより適切な答えを見つけ出し
本来の力が発揮できるよう
援助しよう。

たとえば

- ・感情的にならずに、他の子どもたちから引き離し、だまって落ち着くのを待つ。
- ・お説教せずに、「どう思う？」と問いかけて、考えてもらおう。
- ・教師（親）が教え込むのではなく、子どもにみずから学んでもらうこと。
- ・子どもを尊敬し信頼して、自分の力で問題を解決できると信じましょう。

失敗しても

成功したときよりももっとたくさん
のことを子どもは学びます。

失敗したときには

冷静に

1. なぜ失敗したのだろう
 2. いま何をすればいいだろう
 3. これからどうすればいいだろう
- について問いかけましょう。

子どもと一緒に共同体を作り
子どもと一緒に遊び・はたらき・話し合い
みんなで力を合わせて

生きる喜びを共有する。

これがアドラー心理学の基本です。

アドラー心理学は

すべての子どもが人間としての能力を十分
に発揮できるように援助したいのです。

権力を求める子どもの例

- ・ 教師が注意をしても食ってかかってくる。
- ・ 教師の言うことに服従しないで、黙ってしまったり、ひっこんでしまったりする。

- ・ 親の言うことを聞かず、反抗的なことばかり言う。
- ・ 家族全員の行事（たとえば外出）に参加しようとしなない。

提案3：勝ち負けから降りる

勝っても負けてもいいことはなにひとつない

いますぐに決めなければならぬことはない
陰性感情のあるときは話し合いの時ではない
落ち着いてから話をするにすればいい

理性が回復すれば子どもは自力で問題解決できる
子どもだけでなく、大人も子どもになっている
大人と大人としてのつき合い方を学ぼう

ここでちょっと休憩



<http://jalsha.cside8.com>

不適切な理想の5段階

0. 賞賛を求める：しつこいと面倒くさい
1. 注目関心を引く：イライラする
2. 権力争い：怒り。喧嘩を買いたくなる
3. 復讐する：傷つく。暗い気持ち
4. 無能力を誇示する：見捨てたくなる

問題解決の5段階

0. ストップ：なにはともあれ止まる
1. 観察する：自分の感情を観察する
2. 理解する：仕組みを理解する
3. 変容する：基本的な構え方を変える
4. 行動する：新しい構えで行動する

なにを理解するの？

- ・人間はいつもキラキラした理想を求めて行動しています。
- ・それが他の人の理想や、共同体全体の理想とぶつかったとき、トラブルが起こる。
- ・まず、自分自身の理想を点検してみよう。
- ・自分の理想が実現しているものなら、方法を工夫しましょう。
- ・自分の理想が実現してはいけないものなら、別の理想を探しましょう。

理想の特徴

理想は「キラキラしたイメージ」です。

1. プラスの感情をともなう
2. 「～する」ではなくて「～である」
3. 「～でない」でなく「～である」
4. 自分の行為の結果

というような特徴があります。

子どもの理想は？

・子どもの理想を分析する前に、まず自分の理想を分析することです。なぜなら、変えられるのは自分自身だけだからです。

・そのうえで、不適切な行動をしている子どもの理想は、先ほどいったような

0. 賞賛を求める。
1. 注目関心を引く。
2. 権力争いをする。
3. 復讐する。
4. 無能力を誇示する。

の5段階があります。

変容するってどういうこと？

教師（親）の理想が、子どもにとってもクラス（家庭）にとっても貢献的である場合には、
どうすれば上手に実現できるかを考えます。

しかし、教師（親）自身が不適切な理想を求めていることがあります。

典型的には「権力争いに勝つ」です。

その場合には、理想を、共同体に対して貢献的なものに変容させなければなりません。

アドラーの願い

多民族・多言語・多宗教国家で憎しみあって暮らしていました。

やがて第一次世界大戦が起こってしまいました。
二度と戦争が起こらないことがアドラーの願い。

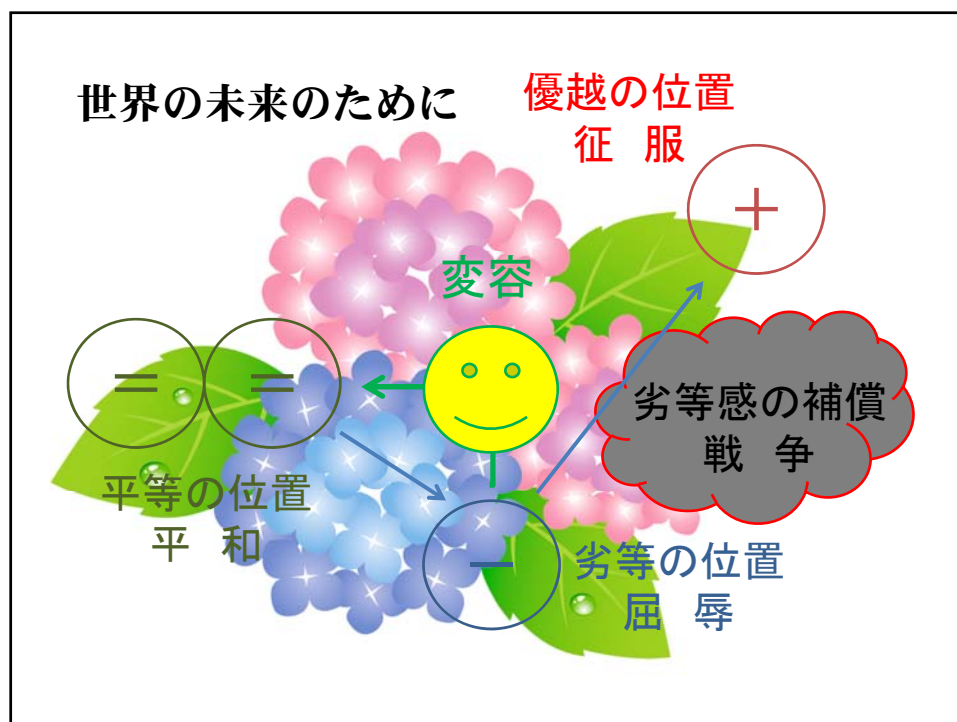
・そのためには

政治や制度を変えるのではなくて

人間を変えなければなりません

そのためには

- 育児と学校教育を改革して
- 子どものころから
- 相互尊敬・相互信頼の横の関係を学び
- マイナス感情や暴力でない方法で問題を解決することを学ぶ
- そういう子どもが育って
- **新しい社会を作る**





ありがとうございました



<http://jalsha.cside8.com>